

大久保地区育成委員会だより

第31号

新宿区大久保地区青少年育成委員会

広報部 TEL 3209-8651

平成 30 年 10 月号



暑い夏も活躍!

西早稲田中学校

校長 冠木 健

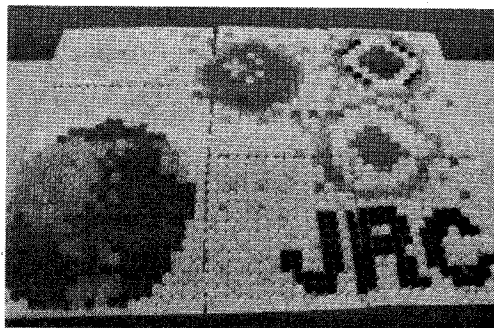


本校 JRC (青少年赤十字) 部は、7 月 24 日「東京・ソウル・北京三首都支部協議会青少年赤十字交流プログラム」の一環として来日した、ソウル、北京、および東京の中・高校生メンバー 30 名と各国のボランティアスタッフなど、総勢 50 数名の訪問を受けました。この企画は日本赤十字社東京支部 (大久保 1-2-15) が毎年行っているもので、今年が 16 回目になります。順に各都市を訪問しており、今年は東京が訪問を受ける年です。

当日、訪問メンバーは、まず、剣道の師範、吹奏楽部の練習風景の見学や書道体験により日本の中学校を実感しました。また、JRC 部との交流では、折り紙づくりやペットボトルキャップアートに本校生徒とともに挑戦しました。さらに、昼食を皆さんで各国の活動を英語で紹介しあったり、茶道を体験したり、盛りだくさんのプログラムに取り組みました。

本校 JRC メンバーも、通訳や取組の説明に、加盟校としての役割を果たすことができました。

吹奏楽部は、8 月 3 日、練馬文化センターにおいて第 58 回東京都中学校吹奏楽コンクール予選会に参加しました。楽曲は、Steven Reineke 作曲 Sedona セドナ。アリゾナ州セドナの景観に着想を得て書かれ、トロンボーン、フルート、クラリネットと次々に主題が提示される作品です。生徒は日ごろの練習の成果を発揮し見事銀賞に輝きました。今後、西早稲田祭や演奏会などで地域の皆様にも披露してまいります。



ペットボトルキャップアート

E S S (ENGLISH SPEAKING SOCIETY) 部は、8 月 8 日、四谷区民ホールで行われた第 34 回新宿区立中学校英語学芸発表会に出場しました。本校は、伝統の P L A Y の部に参加、「The Karate Kid」を披露しました。「最後まで諦めない勇気や強さを身に付けていく少年の成長」について英語で熱演しました。こちらも西早稲田祭で発表の予定です。

テニス部 (個人)、陸上部 (個人) も東京都大会に進出し練習の成果を発揮してきました。

夏休みに貴重な経験を積んで成長を見せる子供たちに、地域の皆様の応援を引き続きよろしく願っています。



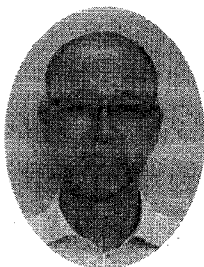
英語学芸発表会



2 学期も地域と共に

新宿中学校

副校長 大田黒恵一



3 月 31 日をもって勇退された本名瀬伸博副校長先生の後任として、区内西早稲田中学校から着任いたしました。前「所属」が西早稲田中ではありましたが、平成 27 年度から 29 年度の 3 年間は、中国の大連の東北部に位置し、冬は最高気温が氷点下という寒い地域でした。日本が統治していた時期もあり、親目的な方々の多い都市です。

さて、新宿中に着任し初めに感じた印象は、「パワー」です。きちんと整列をしようとするパワー、真剣に話を聞こうとするパワー、その生徒たちを一生懸命指導している教職員のパワー、そして様々な協力をしていただく保護者や地域の方々のパワー。それらのパワーをより強力にするためのお手伝いができれば、と思っ

ています。どうぞよろしく願います。

2学期には様々な学校行事が予定されています。9月4日から6日まで2年生は職場体験を行い、たくさんの地元事業所にご協力をいただきました。8日(土)には、道徳授業地区公開講座がありました。各クラスが道徳の授業を行い、その後講演会、協議会を実施しました。26日から28日は、若草学級が女神湖高原学園に移動教室に行き、大自然の中で様々な体験をしてきました。

10月27日(土)には学芸発表会が行われます。日頃の成果の一端を発表する予定ですので、ぜひ

地域の一員として

天神小学校

副校長 牛山 聡



くお願いいたします。

さて、天神小学校は、今年度は、開校九六周年を迎え、百二十一名が集う学校となりました。(平成三十年七月現在)ここ数年間微増の状態が続いています。

九十六年前といえ、一九二三年(大正八年)です。世の中の動きとして、第一次世界大戦が終わって米騒動や関東大震災が起こり……と続く時代であり、いわば教科書で学んだ記憶がある時代です。しかし、その頃から、ずっと存在している学校と、いうことを考えると、自ずとその伝統と地域の皆

お越しく下さい。11月10日(土)には、本校1年生が地域防災訓練に参加させていただきます。育成会や町会の方々と共に、避難所の運営について中学生として何ができるかを学びます。

また、開校以来地域の皆様のご協力により続けている「土曜スクール」も、2学期には6回予定しています。生徒の学習の場の確保と基礎学力の向上に大いに役立っています。

2学期も地域と共に歩む新宿中学校、どうぞよろしく願います。

様の期待の大きさに身の引き締まる思いがします。

特に最近日は進歩で情報化が進み、世の中の変化が激しい時代です。それでもその時代のニーズに合わせて、子供たちの健やかな成長を育む教育を行ってきたからこそ、ここまで地域の皆様にも支持されているのだと思います。

また、時代に合わせてという、本校は昨年度から地域協働学校として動き始めています。これは、『学校運営について協議し学校を支援する組織として、その地域の住民・保護者・教職員等の委員で構成する「地域協働学校運営協議会」を設置した学校です。』

学校の運営に地域住民・保護者等が参画すること、地域に信頼され、地域に支えられる開かれた学校づくりを進めていきます。』(新宿区ホームページより)

地域の皆様の努力と情熱に支えられて輝かしい伝統を築いてきた天神小学校がますます発展するように、教職員が一丸となり「チーム天神」として、邁進していく所存です。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

女子少年院

愛光女子学園見学研修会

新宿中学校

P.T.A会長 牧野 洋

少年院と聞いても具体的に何もイメージできなかった。犯罪に走った不良少年が放り込まれる場所という程度の認識しか持っていなかったからだ。女子少年院となればなおさらだった。

そんなことから、大久保地区青少年育成会の研修として「女子少年院を見学しませんか？」と打診されたとき、にわかに興味が湧いてきた。平日の昼間だったが、仕事を調整して見学に参加してみた。

結論から言えば「見学できて良かった」である。無知だった自分を恥じると同時に、さまざまな理由で社会から隔絶された子どもたちのことについて多くを学べたからだ。実際に足を運んでみなければ分からないことは多い。

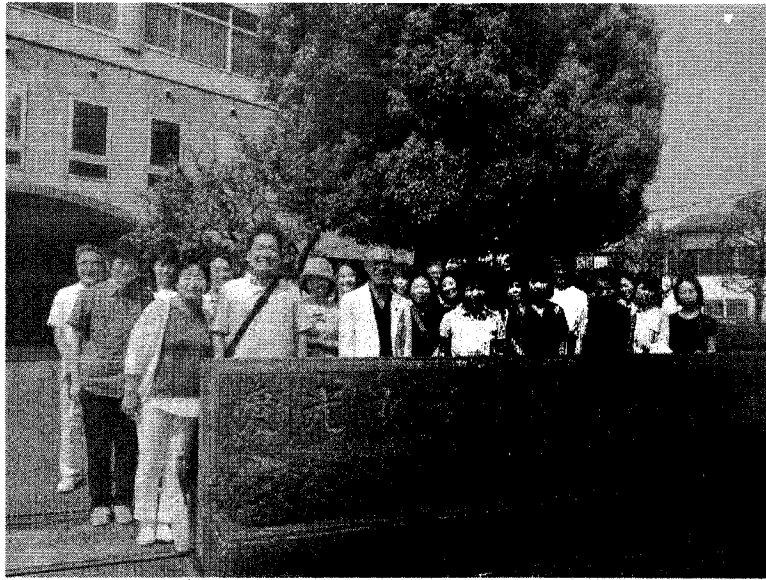
訪ねたのは、東京・狛江市にある愛光女子学園。静かな住宅街にあるうえ、建物はコンクリートの重厚な造りだ。刑務所を連想される鉄条網や格子窓などはなく、何も知らされていなければ少年院だと気付かないだろう。

院内に入っても「ここは本当に少年院？」と思ってしまった。建物内は明るくてきれいだし、子どもたちは普通の女子中学生・高校生と同じようにブレザーの制服を着ている。女子少年院だから坊主刈りもない。少なくとも外から見ると限りは陰湿な雰囲気は一切感じられなかった。

だが、愛光女子学園次長の話を聞くと、まったく違う世界が見えてくる。

少年院だから子どもたちが何かしらの犯罪と関係しているのは当たり前だ。次長によると、愛光

女子学園の場合は覚せい剤や窃盗ばかりか、殺人の罪で収容されている少女もいるという。個人的に最も驚いたのは、ここに収容されている少女の六割は虐待を受けており、実の両親がいるのは全体の四分の一にとどまっているという事実だ。日本全体の平均と比べれば、不幸な家庭環境で育った子どもの割合は圧倒的に高い。



もちろん犯罪は悪いことだ。とはいえ、根本的な問題は子どもたちを犯罪に走らせる環境にある。その意味で子どもたちを単に罰しても意味がない。重要なのは、子どもたちをいかに更生させるかという点にある。

このように考えると、愛光女子学園が普通の中学校・高校のように見えるのも腑に落ちる。院内

には一年中利用可能な温水プールが用意されているなど、普通の中学校・高校以上に立派な部分もある。ここで高校卒業資格を取得し、大学進学を目指す少女もいるという。

見学中に「ここはやっぱり少年院なんだ」と実感したのは、子どもたちに割り当てられたベッドルームを見たときだ。一人部屋もあれば相部屋もある。狭いとはいえ、ベッドと勉強机が置かれている。子どもたちはここで寝泊まりし、一切外出できないのである。

ベッドルームを見て一つ気になったことがあった。七月中旬で記録的な酷暑が続いていたというのに、エアコンが設置されていないのだ（東京の公立学校ではエアコン設置率一〇〇％）。こんな環境で子どもたちはちゃんと眠れるのだろうか？ ひよつとしたら罪を犯した罰としてエアコン禁止になっているのだろうか？

次長に質問したところ、「予算上の理由でエアコンを入れていないだけです」との説明を受けた。これを聞いてちよつと安心した。不幸な家庭環境を考えれば、エアコン禁止で子どもたちを罰するというのはあまりに酷に思えたからだ。

社会環境部

親子で楽しむ水鉄砲作りの

夏休みに入ったばかりの7月22日、今年で3回目となる「親子で楽しむ水鉄砲作り」を開催しました。その日の前後は、猛暑、酷暑、熱中症といった言葉が飛び交う、異常気象の真只中、主催者側としては、イベントの中止も考えなくてはいけないとも考えていました。午前中の行事であること、会場となる戸山公園には木々の木陰が多い

こと、また作る教材が水を扱うこと等を考慮して、熱中症対策等の水やあめを準備して実行することになりました。



おかげさまで、午前の10時すぎには完成した水でつぼうで、水をかけ合い、みんな楽しそうに、シャワーを浴びたようでありさま、保護者もびしょびしょ、猛暑の中、とても涼しい一日となりました。人数的には、実際に水でつぼうを作る子供が約60人、それと工作を手伝う保護者、われわれスタッフ、総勢120人くらいの楽しいお祭りとなりました。場所は、戸山公園、広さもあれば木陰もあり、子供たちは自分の作った水でつぼうではしゃぎまわって、子供って、こんなに元気だったつけとあらためて、子供たちのそこなしパワー

を目にすることができました。

会場は公園での工作教室ということもあって、学校の教室とは異なります。工作の指導の声が通らないのです。もちろん大きな黒板もありません。そこで、参加者をいくつかの小グループに分け、それぞれに、あらかじめ作り方や工作のポイント等を指導した保護者を配置しました。段取り手順はリーダーである私がつとめました。その数人の指導するリーダーはもの作りが好きそうな保護者にお願ひし、了解を得てがんばってもらいました。

結構これが指導する側も、教えてもらいう子供たちも楽しそうで、まさに親子で楽しむ工作教室といった感じです。早い子だと30分くらいで完成です。完成した水でつぼうで遊びだす子供が数人現れると、全体の興奮度が加速します。完成度はほぼ100%、遊んでいる間に壊してしまう子供もいますが、保護者が面倒を見てくれます。

まあ、子供たち楽しそう、そして熱中症等を心配していたスタッフをよそに、保護者も子どもたちも、びしょびしょで熱さがすつとぶ一日を過ごしました。

場所を提供していただいた戸山公園のスタッフ、PTAの保護者に感謝です。ありがとうございました。

育成部 水谷紀雄

親子で楽しむスケート教室

育成部29年度最後のイベント「親子で楽しむスケート教室」は2月25日、高田馬場シズンプラザ、スケート場で行いました。今年で3回目となるわけですが、オリンピックあるいはスケートチームのなかで非常に人気のあるイベントとなりました。イベントを企画し運営する側にとってはうれしい悲鳴なのですが、申し込みから、開催日当日ま

で150人近い人数を扱うわけですから大変です。

しかし、回数を重ねるごとに、その受付方法や参加者たちの誘導方法等昨年度より数段スムーズ、円滑に進められるようになりました。部会を数回繰り返し、いろいろなアイデアを出し合い、あるいは昨年度参加の保護者の意見等を参考に、特に受け付け方法について議論し、実施しました。保護者パワーはすごい!!



ただし、主催者側を困らせるのは、申し込んだけど参加しない、連絡もない。今年度、大変困ったのは、電話での対応で、申し込みをしていない保護者からの電話。

「子供が友達から聞いて知った、これから行きたい、ご飯を食べさせるから1時間くらい遅れるが参加できるか」

の問い合わせ、その電話も当日、受付でばたばたしているさなか、あまりにもわがままな申し出な

のでお断りしましたが、聞く耳を持ちません。仕方がないので特別対応し参加の許可を出しましたが、いくら待っても来ない。で、電話して見ると「子供が誰かと遊びに行ってしまった」とのこと、これは本当に参りました。

まあ、これも子供のイベント、おおらかに見て何があっても参加してくれた子供たちが元気に楽しんでくれれば。おかげさまで、当日、参加してくださった人たち100%元気に楽しくスケート楽しめたようです。

イベント実施まで献身的にもろもろ協力していただいた保護者、育成部員の方々ご苦労さまでした。そして皆さんありがとうございます。

育成部 水谷紀雄

第8回 ここ・からまつりのお知らせ

今年も「ここ・からまつり」の季節がやってきました!

屋台広場やふれあい動物園も充実!

「同心くん」「新宿シンちゃん」「あつまるくん」等のマスコットキャラクターも元氣一杯にみなさんをお迎えします。他にもスタンプラリーやいろいろな催し物が皆さんをお待ちしています。

ぜひご家族やお友達を誘って来てください。もちろん一人でもOKです!!

●日時 11月25日(日)午前10時から午後3時まで

●会場 新宿区新宿7-3-29「新宿ここ・から広場」
(子ども総合センター、しごと棟、マザアス新宿、多目的運動広場等)

●問合せ 3232-0673

ここ・からまつり実行委員会